



わがやま大会を応援！
一緒に紀の国わかやま大会を応援！



2015 紀の国 わがやま大会

Vol.2 (平成26年7月発行)

第15回全国障害者スポーツ大会広報紙

かつどうほうこく

活動報告

だい かい わ か やまけんしょうがいしゃ

たいかいかいさい

第14回和歌山県障害者スポーツ大会開催



5月18日(日)に第14回和歌山県障害者スポーツ大会
開会式が開催されました！

県内郡市、特別支援学校の各選手団ごとに入場する選手の
姿は、誇らしげで自信に満ちていました。

紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会のイメージソング
「明日へと」をみんなで歌う場面では、歌声だけでなく、手話
で歌う選手も多く見られ、会場が一体となりました。

この大会は、11月に長崎県で行われる第14回全国障害者
スポーツ大会の予選会を兼ねており、陸上、水泳、卓球、
アーチェリー、ボウリング、フライングディスクのそれぞれ6
競技で、全国大会出場をかけた熱い戦いやスポーツを楽しむ
姿が見られました。

陸上競技

開会式の後に行われた陸上競技に

は、300人を超える選手が出場しました。

【競走】50m、100m、200m、400m、800m、1500m、スラ
ローム、4×100mリレー。【跳躍】立幅跳、走幅跳。【投てき】
ソフトボール投、ジャベリックスロー、砲丸投。

障害者スポーツならではの競技用車いすでのレースはとても
迫力があり、後半に行われたスラローム競技と4×100メー
トルリレーでは、試合が終わった選手や観客がトラック近くに
集まってきて、会場が一体となって応援しました。

車椅子使用の選手が出場するスラローム競技とは、レーン上
に置かれた直径10cmの円柱の間を通過したり、周回したり
しながら30メートルのタイムを競う競技で細やかな動きが
求められます。投てきのジャベリックスローは、ターボジャブ
というポリエチレン製の競技用具を遠くに投げてその距離を
競います。

どの種目をとっても、選手がそれぞれに奮闘する姿が印象的
な1日でした。



わがやま大会 Topics では、

皆さんからの応援のメッセージなど、
おたよりを募集、ご紹介しています。
みなさんのお便りを
お待ちしております。

みんなからの
おたより
待ってるワ！



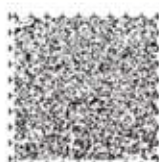
〒640-8033 和歌山県和歌山市本町2-40
聖一ソレイユビル4階

紀の国わかやま大会認知度アッププロジェクト「Topicsお便り係」
E-mail wakayama.taikai2015+otayori@gmail.com

7月のイベント

【わかやま障害者フライングディスク大会2014(第3回大会)】
7月21日(月・祝) 10:00～
和歌山市立河南総合体育館

【第14回全国障害者スポーツ大会強化指定選手 強化練習会(第1回目)】
7月27日(日)
紀三井寺陸上競技場他各競技会場



2015 紀の国 わがやま大会

第15回全国障害者スポーツ大会 躍動と歓喜、そして絆

平成27年 10月24日(土) ▶ 10月26日(日)



■100メートル

生馬 知季選手(20歳)

今回1位となられた生馬選手でしたが、「昨年度の記録より1秒ぐらい遅かった。スタートが遅れてしまったのが原因だ」と悔しそうに振り返っていました。

競技を始めたきっかけは「もともと車椅子スポーツが好きで、車椅子バスケットをしていたんですけど、その関係でスポーツジム

をしている方にこの競技を教えて頂いて。」そこから夢中になって続けているそうです。

三輪の競技用車椅子(レーサー)を使うため、「迫力がある競技だと思うので、たくさんの方々に見て頂きたいです。」と見どころを語ってくれた生馬選手。「まだまだ課題はあるけど、せっかく和歌山で全国障害者スポーツ大会が開催されるということで、和歌山出身者としては優勝を狙っていきたい。それに向けて頑張っていきたいです。」と意気込みを聞かせてくれました。



■砲丸投げ

宮崎 郁矢選手(19歳)

宮崎選手は中学2年生の校内陸上大会で負けて、その悔しさから高校に入ってからずっと砲丸投げをしているそうです。砲丸投げの魅力は、と問うと、「自分の力を

信じて記録が伸びて楽しい」と笑顔で話してくれました。

「自分でいろいろと工夫して他の先生方にも指導してもらい、4キロの重さでは大会記録を更新してみたい気持ちです。」と今後の目標を語ってくれた宮崎選手。

最後に紀の国わかやま大会に向けて話を聞くと「自分を信じて優勝をめざしたい。」と力強く答えてくれました。



■ソフトボール投

古久保 喜朋選手(58歳)

「小さい頃から野球をしていて、ソフトボールはちょっと大きいですけど馴染みのあるボール。」と古久保選手。「練習したらした分だけ結果が出るかなって思うのですが、実際はそうでもないんですよ。」と競技の魅力と難しさを話

してくれました。以前、大病を患いながらも練習に励み、全国大会にも出場。そういう経験をされているからこそ「同じように病気を患っている人に励みになればいい。」と話してくれました。紀の国わかやま大会では「選手一丸となってメダルを取りたい。そして他府県の方が和歌山に来た時に、良かったと思ってもらえるように恩返しをしたい。」と他府県選手へのおもてなしの気持ちも話してくれました。



■走幅跳

谷本 真選手(16歳)

小学校低学年から陸上を始め、高学年ぐらいから跳躍をするようになりました。「走るのが速かったの、それを活かすためにこの競技をやってみたかった。」と走幅跳を始

めたきっかけを教えてくださいました。記録が出ることがこの競技のなよりの魅力で、「そのために

毎日練習したり、基本のフォームチェックを欠かさずしている。また、跳ぶときのコツはやはり踏み込み。」だそうです。「いろいろな人が応援してくれることが嬉しい。家族には感謝している。」と家族の支えの大きさも教えてくれました。「勝ち負けのあるスポーツですから、悔いのないように戦いたいと思います。」と紀の国わかやま大会への意気込みを聞かせてくれました。



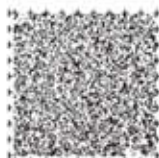
■1500メートル

山本 昂城選手(15歳)

山本さんが陸上をはじめたのは小学生の時。マラソン大会で負けたことがきっかけだそうです。高校生となった今は、家に帰ってから毎日

練習しているとのこと。その日々の努力が、山本さんの強さの要因のように思えました。

「先生が厳しいですけど、頑張っついてこれた。自分の限界を超えることができるのが陸上競技の好きなのところ。」紀の国わかやま大会では「自分の力を精一杯出して優勝したい。」と意気込みを語ってくれました。



2015 紀の国わかやま大会

第15回全国障害者スポーツ大会 躍動と歓喜、そして絆

平成27年 10月24日(土) ▶ 10月26日(月)

ホームページは 紀の国わかやま大会

検索

第15回全国障害者スポーツ大会広報紙

2015 紀の国わかやま大会 Topics

Vol.2 (平成26年7月発行)

〒640-8585 和歌山市小松原通1-1 和歌山県国体推進局 障害者スポーツ大会課 (紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会実行委員会事務局)

Tel.073-441-2572 Fax.073-427-5388

URL <http://www.wakayama2015.jp/>